

船舶事故等調査報告書

平成25年6月27日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2012門第124号
事故等種類	浸水
発生日時	平成24年9月8日（土） 03時25分ごろ
発生場所	福岡県糸島市姫島南方沖 糸島市所在の筑前姫島港東防波堤灯台から真方位178° 2,800m付近 （概位 北緯33° 32.5′ 東経130° 03.4′）
事故等調査の経過	平成24年9月11日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 福丸、2.6トン
船舶番号、船舶所有者等	290-53307福岡、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型船舶操縦士
死傷者等	なし
損傷	主機、クラッチ等が濡損
事故等の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、友人2人を乗せ、姫島南方沖を糸島市加布里漁港に向けて帰航中、平成24年9月8日03時25分ごろ、船長が、主機回転数の低下に気付いて機関室内を点検したところ、主機上部付近まで浸水していたので主機を停止したが、浸水箇所は不明であった。 本船は、海上保安庁に救助を求め、来援した救助船にえい航され、05時35分ごろ加布里漁港に入港した。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 南東、風速 約3.0m/s、視界 良好 海象：波高 約1.0m
その他の事項	主機の冷却海水は、主機直結の冷却海水ポンプによって吸引加圧され、主機の空気冷却器、潤滑油冷却器、クラッチの潤滑油冷却器及び清水冷却器を順に通って船外へ放出されるようになっていた。 クラッチの潤滑油冷却器入口側の冷却海水管は、ゴム製であり、同冷却器の入口側にホースクリップで取り付けられていたが、加布里漁港に入港後、外れていることが確認された。 主機及びクラッチの各冷却器管内には、大量の貝殻等が詰まっていた。 船長は、平成12年ごろに中古の本船を購入したが、主機及びクラッチの各冷却器管内を掃除したことがなかった。 主機冷却海水系統の吸入こし器は、外筒が透明のアクリル製であり、船長が、適宜、こし網を外部から点検し、掃除していた。

<p><b>分析</b></p> <p>乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析</p>	<p>あり あり なし</p> <p>本船は、姫島南方沖を航行中、クラッチ潤滑油冷却器入口側の冷却海水管が外れたことから、機関室内に浸水したものと考えられる。</p> <p>クラッチ潤滑油冷却器入口側の冷却海水管は、主機の各冷却器管内の汚損状況から、冷却海水圧力の上昇により、外れた可能性があると考えられる。</p>
<p><b>原因</b></p>	<p>本事故は、夜間、本船が、姫島南方沖を航行中、クラッチ潤滑油冷却器入口側の冷却海水管が外れたため、機関室内に浸水したことにより発生したものと考えられる。</p>
<p><b>参考</b></p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主機冷却海水系統は、適宜、掃除をすること。</li> </ul>